

Vol.67

生田緑地マネジメント会議ニュースレター

発行日：令和8（2026）年 11 月　　発行者：生田緑地マネジメント会議事務局

令和8年度　第2回運営会議を開催しました



第2回 運営会議の様子

令和8年10月2日（金） 17:30～19:30

生田緑地東口ビジターセンターにて第2回運営会議が開催されました。参加団体数26団体＋委任状8名（計34団体）、Zoom4名、傍聴2名、総参加者数42名となりました。

1. 開会挨拶（森副会長）「最近は大雨が多く、この地域でも心配をしておりました。今後の自然現象に対する対策を含め、皆様と意見交換をしていきたいと思います。」

◆審議・承認事項　～新たに3つのプロジェクトが発足されました！参加ご希望の方は事務局までご連絡ください～

2. プロジェクトの発足について



森副会長　加藤副会長

（1） 生田緑地の竹林整備と竹の活用法（提案者：加藤副会長　森副会長）

緑地内の竹林を適切に整備し、過密化による生態系への影響や土砂災害のリスクを軽減するとともに、光が差し込む明るく健全な竹林を目指します。また、伐採した竹を竹炭、竹パウダー、竹細工、食器、おもちゃなどに活用する仕組みづくりにも取り組みます。まずは竹林整備から始め、専門知識を持つ会員や市民の協力を得ながら、段階的に進めていく構想です。



日曜の生態学研究所
倉本様

（2） わんぱく ひろば（提案者：加藤副会長　森副会長）

子どもたちが自然の中でのびのびと遊び、里山での体験や思い出を育める場を目指します。学校帰りなどに日常的に集まれる居場所づくりと、縁日などのイベント企画を柱とし、自然保護との調和を図りながら利用エリアや時間帯を検討します。区内各地、生田緑地のイベントにも参加している「多摩区こどもの外遊び交流委員会」も本プロジェクトに協力予定です。

（3） マクロな視点から生田緑地を考える（提案者：日曜の生態学研究所　倉本様）

明治初期の生田緑地は、谷の周囲がマツ林ばかりでした。しかし時代とともに里山の自然は変遷し、現在はほとんど残っていません。樹木一本ごとの管理に加え、気候や自然環境の変化、また近年の豪雨や土砂災害リスクを考慮して、緑地の敷地境界内外に限らず周辺地域や隣接自治会を含めて、長期的・広域的に捉え「未来の緑地像」を考えるプロジェクトです。期間を限定せず、課題や成果を適宜共有しながら、会員全体で意識していけるよう、継続的に議論していきます。

◆報告・共有事項

3. 自然環境保全管理会議からの報告（自然環境保全管理会議事務局）

7 月 5 日に青少年科学館にて、ミニシンポジウム「市民が楽しむ大都市の自然－雑木林－」を開催し、36 名が参加しました。岩田会長による伐採方針等の講演と後半の意見交換会を通じ、取り組みを知る機会となり有意義であったという意見や、情報発信の充実を求める声が寄せられました。植生管理計画の検討体制や団体間の情報共有の課題については、関係者との対話を重ねて改善を目指します。

4. 生田緑地の東地区を考えるプロジェクトの再開の方向性について（プロジェクト会長　松岡様）

2023 年に発足し、新たなミュージアムに関する提言書（環境・安全・景観配慮等の6項目）を提出した後、活動を一時中断していた同プロジェクトについて、来年度を目処に再開する方向性が報告されました。新たなミュージアムやばら苑だけでなく、隣接自治会（アクセス・交通問題）や向ヶ丘遊園駅南側のまちづくりと連動した、広域的な視点で検討する方針です。

◇主な質疑応答・意見

・東地区の環境アセスメントや、ばら苑を取り巻く樹林地の保全、ばら苑の植栽等について、行政の方針を率直に議論する場

が必要。今後、具体的な意見を交わすボランティアや市民側の受け皿がなくなることも懸念される。

5. 生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた検討状況について

（みどり・多摩川事業推進課、新たなミュージアム準備担当）

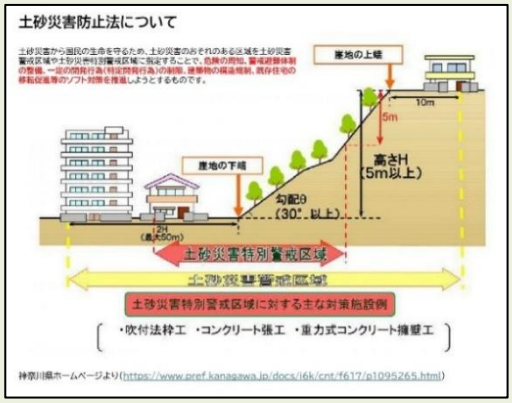
８月 29 日にばら苑リニューアルに向けた第２回意見交換会（ワークショップ）を開催し、17 名が参加しました。第１・２回のニュースレターを市 HP で公開する準備が進められています。また、９月１日に開催された有識者による「川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第１回生田緑地ばら苑再整備検討部会」の資料および会議摘録を９月 30 日に市 HP で公開しました。方針策定については、令和８年夏頃と示していましたが、周辺で土砂災害警戒区域が指定される見込みであることが判明したことや、庁内でのさらなる検討調整事項が生じたため、策定を延期しています。

◇主な質疑応答・意見

・ばら苑の整備方針策定が延期される間、現在のばら苑は放置されないか。また、９月１日の検討部会資料から処分株に関する記載がなくなった理由は何か。→市：日常の維持管理は公園緑地協会に委託して従来どおり継続しており、意図的な破棄は行っていない。検討部会の資料は検討段階のもので、決定事項ではない。

6. 土砂災害防止法に基づく2巡目の基礎調査結果について（生田緑地整備事務所）

７月29日に神奈川県より第２巡目の基礎調査結果が公表されました。生田緑地の斜面地については、指定区域に限らず、東生田2丁目地区は定期的に調査をしており、対策が必要と判定があった場所については対策工事を実施しています。今後、みどりの保全整備課において枡形6丁目地区や初山1丁目地区の緑地外周部についても調査を行っていく予定です。また来年4月に指定される生田緑地内の指定区域についても今後斜面の状況について調査を行います。



◇主な質疑応答・意見

・近隣町会にとっては非常に興味のある内容である。県の結果公表だけでなく、市として、緑地内のどこで倒木や崩落が発生したのか、被災状況や現況の記録・共有を行ってほしい。

→市：パトロールや通報で把握した情報は 12 月の運営会議等で共有し、情報交換の時間を設けたい。

・ナラ枯れ以前からクズの蔓が木を覆って枯らし、下草を藪にしてヤマツツジなどを破壊している。また、竹林の下は表土が剥き出しで、大雨のたびに近隣住民は土砂流出の危機にさらされている。「自然を守る」とは、手をつけずに自然のまま放置することなのか。→倉本様：自然を守るとは、放置することではなく、自然の力と人間の手入れが釣り合った状態を維持することである。何もしないで自然の力に任せておくことではない。

7. クビアカツヤカミキリについて（生田緑地整備事務所）

特定外来生物クビアカツヤカミキリの成虫が、６月 30 日に川崎市宮前区の菅生緑地で確認されました。サクラやウメなどの樹木に被害を与える害虫です。発見した場合は駆除し、発見場所を事務局へ連絡するよう協力が呼びかけられました。

8. 向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針について（事務局）

パブリックコメントを経て方針が策定されました。生田緑地の玄関口にふさわしい駅前空間づくり、地域資源を生かした賑わいづくり、交通環境の改善などの方向性が示され、今後は関係者と連携して具体的な取り組みを進めます。

9. 7/25 ・ 8/15「生田緑地夜市」、9/26「お月見フェスタ」開催報告（生田緑地共同事業体）

７月 25 日・８月 15 日の「生田緑地夜市」は、夕方の来園促進と地域交流を目的に開催。８月は加藤副会長、森副会長協力のもと、縁日を開催しました。９月26日「お月見フェスタ」は雨天と気温 20 度前後の寒さのため、縮小開催。日本女子大学薬袋研究室による竹パウダーの展示販売ブースや、緑地利用ルール（持ち込まない・持ち出さない）の啓発等を行いました。

10. その他報告（アクションプランの進捗状況、 五ヶ村堀管理運営協議会 ほか）

（1） 五ヶ村堀緑地管理運営協議会からの提案・報告

1. 緑地に関する計画やパブコメ等を市 HP に掲載した際は、マネジメント会議メーリングリストで必ず共有し、担当異動があっても継続できる仕組みを整えてほしい。

→事務局：担当異動の際にルールが変わらないよう、共有手順を含め整理する。

2. ばら苑意見交換会について、第１回・第２回の内容を HP で共有した上で第３回を開催し、また、参加者からの質問や対話の時間をしっかり確保してほしい。→市：個別で意見交換の場を設けることについては、対応可能である。

3. ばら苑再整備検討部会の委員による講演・意見交換について。専門家の検討視点を市民側も理解できるよう、意見交換の場や、全体会での講演会など共有の場を設けてほしい。→事務局：全体会での講演会については、他会員も講師の希望・要望があれば知らせてほしい。

4.「みんなで育てるローズコミュニティプロジェクト」講演会開催報告（7/20、8/11）

雑誌『New Roses』編集者の玉置氏を招いたバラの環境変化や品種の動向、各地バラ園に関する講演と、広島県福山市ばらのまちづくり課の市川氏を招いた市民参加の管理に関する講演を開催し、各回 50 名超の参加がありました。

5. 神奈川県綾瀬市「あやせローズガーデン」視察報告（9/22）

◇主な質疑応答・意見

・2 回の講演会について、どちらも非常に良い内容だった為、市の担当課にも参加して欲しかった。ばら苑リニューアルに向けた意見交換会は、本講演のような手法を取り入れるべき。

（2） もみじ会からの活動報告

開発工事に伴い 2 年間中断していたもみじ谷の整備活動を再開し、水質環境の保全などに取り組んでいることが紹介されました。もみじ谷は、ばら苑の北側に隣接する谷戸区域で、ビオトープ・湧水がある約 100m 四方のエリアです。今後は、さらに活動の範囲を広げて、里山としての価値をしっかり示していきたいとの展望が語られました。本活動に興味のある方は是非ご参加ください。

◇主な質疑応答・意見

・本エリアは平成22年の全国植樹祭サテライト会場として植樹も行われている。これまで篠崎前代表の尽力により整備活動を行ってきた場所として認識してほしい。



もみじ会　活動方針と参加募集

（3） アクションプランの進捗状況について

５か年計画のアクションプランについて、１年間の達成度や進捗状況、予算要求の方向性、各部署の役割分担が見えにくいことが課題として挙げられました。

特に、重要視されている植生管理計画が進んでいない現状を踏まえ、達成指標や進捗状況を一覧で確認できる管理シートを作成し、市民への情報公開や各団体間での課題共有につなげる必要性が指摘されました。また、マネジメント会議設立当初と比べ、行政側の参加が消極的になっているのではないかとの懸念も示され、会議のあり方について問題提起がありました。

→事務局・市：進捗状況については各所管と取りまとめを行っているところであり、数値化や公表方法を整理して示す方向である。また、行政側の参加率についても指摘の通り、改善に努める。

（4） 「市政活@かわさき」について

10 月 30 日に多摩市民館にて、第８回「みどりの基本計画・公園 PFI・稲田公園再整備」についての勉強会を開催します。

11. 閉会挨拶（薬袋会長）

「大変充実した議論があり、素敵な会になったと思います。単に説明を受けるだけでなく、双方向の意見交換ができる場を今後も増やしていくことが極めて重要です。ざっくばらんな意見交換の場となるよう、市民の皆さんは行政が参加したくなるような話し合い方を心がけ、行政の方もここに出てより良い市政運営につながる対話の場にしていきましょう。新しいプロジェクトが発足し『楽しみです』と言っていただける会議は最高だと思います。皆で楽しんで進めてまいりましょう。」